

日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会
SIMSEA 小委員会 第 25 期第 3 回会合（議事メモ）

日時：2022 年 5 月 20 日（金） 10 時 30 分～12 時 00 分

場所：オンライン（ZOOM）

出席者：別紙のとおり

議事次第：

- （1）重層型リージョナル・ネットワーク形成に基づく統合的モニタリング・沿岸域管理フレーム構築に関わるプレゼンテーション・シリーズ
 - －第 1 回 PEMSEA における重層的なネットワークと地域戦略の推進体制（古川）
 - －第 2 回 “国連海洋科学の 10 年” “国連生態系回復の 10 年” の動向と東・南アジア地域との連携可能性（角田）
- （2）質疑応答と「科学と政策の融合に向けた課題と工夫」について意見交換
- （3）次回以降のプレゼンテーション・シリーズ講演候補者と実施時期について

配布資料：

- 資料 1：「PEMSEA における重層的なネットワークと地域戦略の推進体制」発表スライド資料（古川）
- 資料 2：「“国連海洋科学の 10 年” “国連生態系回復の 10 年” の動向と東・南アジア地域との連携可能性」発表スライド資料（角田）

議事：

- （1）重層型リージョナル・ネットワーク形成に基づく統合的モニタリング・沿岸域管理フレーム構築に関わるプレゼンテーション・シリーズ
灘岡委員長より第 3 回会合の趣旨説明があり、続いて古川委員より資料 1 に基づいて、PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）における重層的なネットワークと地域戦略の推進体制について発表が行われた。PEMSEA の活動や、PEMSEA が提唱する沿岸域総合管理（ICM）について、SDS-SEA（Sustainable Development Strategy for the Seas of East Asia）や SOC（State of Ocean and Coast）レポートの概要を交えながら紹介が行われた。また、角田委員より資料 2 に基づいて、国連海洋科学の 10 年・国連生態系回復の 10 年の動向と東・南アジア地域との連携可能性について発表が行われた。国連海洋科学の 10 年や国連生態系回復の 10 年に関する国際的な動向について、国連海洋科学の 10 年に関する日本の取組み状況などとともに紹介が行われた。
- （2）質疑応答と「科学と政策の融合に向けた課題と工夫」について意見交換
まず PEMSEA について、灘岡委員長より学術への期待について質問があり、古川委員より

科学との直接的な連携が課題になっている旨の回答があり、SIMSEA との常設的な連携による相乗効果への期待がについて意見が交わされた。PEMSEA で目指している Knowledge Bank の取組みを通じた連携の可能性などがある。また、川辺委員より東南アジアでの ICM のレベルについて質問があり、100 を超える取組みによって海岸線の 40% がカバーされている一方で、完成度の高い取組みは一桁くらいである旨の回答が古川委員より行われた。関連して、様々な観点からの統合があるなかで、ガバナンスの内部構造の統合状況について灘岡委員長より質問があり、ガバナンスは地域ベースでなされている旨の回答が古川委員よりあり、また、国によって行政システムが異なることが研究事業を行ううえでの課題となっている現状を踏まえて、ノウハウの共有や研究者ネットワークの強化について斎藤委員よりコメントがあった。この際、灘岡委員長よりギャップ分析の重要性が示された。最後に、コロナ禍による計画変更の可能性について大塚委員より質問があり、コロナ禍を教訓やチャンスとして捉える一方で、そういった状況でも機能する計画にすることが重要である旨の回答が古川委員より行われた。

続いて、国連海洋科学の 10 年について灘岡委員長より、具体的な研究事業にしていくことの難しさが示され、予算が各イニシアチブに任されている現状について角田委員より回答が行われた。また、仲岡委員より、国連海洋科学の 10 年の既存の公認事業について、基本的にはボランティアな活動になっている現状を踏まえて、各国の事例について質問があり、ユネスコ IOC がアクサの支援を受けている事例などについて角田委員より回答が行われた。また、2 月に行われたアジア域とのワークショップについて脇田委員よりコメントがあり、途上国のやりたい研究と日本の支援との間にギャップがあること等の議論が行われたことが紹介された。

(3) 次回以降のプレゼンテーション・シリーズ講演候補者と実施時期について

灘岡委員長より、次回のプレゼンテーション・シリーズとして、アジア太平洋域の海洋生物多様性ネットワークについて仲岡委員より、国際サンゴ礁イニシアチブの地球規模サンゴ礁モニタリングネットワークについて山野委員より発表いただくことが提案され、了解された。10 月を候補として別途に日程調整を行うこととなった。また、次々回以降の発表者について灘岡委員長より打診があり、メール等を通して連絡を頂きたい旨が示された。